



月刊 おかじょうき

<http://www.okajiki.com/>

2023

5

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社 4月例句会	19
川柳吟行会「ぼ」	26
十和田たてがみ川柳会 3月句会報	30
■連載■	
「深艘心理」 奈良一艘	25
Infomation	33～

カンテラ

ぼんち

先日、青森市内のある柳社の代表から「新型コロナウィルスが治まってきたので7月に創設30周年記念句会をやりませ」と言われた。

新型コロナウィルスという厚い雲の間から、川柳大会というものに陽が射してきたのだ。

当柳社も川柳ステーション2023の準備を急がなければならぬ。

それでは、カンテラに明かりを点しましょう。

A群

春の野に春の軍団やって来る 小野五郎
引出しの隅で止まっている時間 三浦蒼鬼
米を研ぐ無洗米だと知りながら 金瀬達雄

記憶の外側」には、消える記憶があるってことでしょうか？あるいは、「記憶」が、散つてゆく「桜」の花びらに埋もれていくってことでしょうか？どっちも違うかもしれないですね。もしかしたら、この「桜」は、植物ではなく人間なのかもしれませんね。

B群

ふざけるなって弁護士いますよねえ 旅男
生け贄をたべた女神のへその向き 宮井いずみ
満員の電車でシリウスを拾う 須藤しんのすけ
落ちこぼれになって気づくレモン味 田久保亜蘭
お先へどうぞ風と遊んでいますから 斎藤泰子
日曜のヒダのところを二周半 石橋芳山
騙そうと言葉の春がめくれだす 芝岡かんえもん
球根よ見てきた事は土に吐け 米山明日歌

米山明日歌さん、下5の「吐け」が強烈ですね。「球根」と言えばチューリップの球根しかすぐには思い出せませんが、広辞苑を引いたら「球根または塊状をした地下茎や根。鱗茎（スイセン・ユリ・チューリップ・タマネギ）

指定席亡夫に頼んでとっておく 村上てる

端っこで踏まれて咲いてカキドオシ 熊谷冬鼓

野仏の耳にイヤホンつけてやる 坂本清乃

あなたから春のキラキラ探します 辻井洋子

爆風の下に小さな子守唄 安藤なみ

吐きだそう遠い昔の通り雨 まきこ

月皓々水が騒いで眠れない きざらぎ彼句吾

桜が咲いた戦争は終わらない 鳴海賢治

手ざわりは微妙コントラスト高めの朝 柳本恵子

涙目の中で時計がカッチンカッチン 葉 閑女

桜ほろほろ消えぬ記憶の外側に 吉田州花

吉田州花さん、この句の後半は複雑ですね。「消えぬ

球茎（サフラン）・塊茎（ジャガイモ・カラジウム）・根茎（ショウブ・塊根（ダリア・サツマイモ）などがある。」と書いてあるのでびつくり。じゃがいもも球根なんだね。「球根」は「土」の中にできるものだから「土に吐け」で、人は育つた社会に「吐け」ばいいのかな？あれ？土の中で「見てきた事」は「土に」捨てて、真つ新たな状態で地上に芽を出してことかな？ま、読者は自分が好きなように読めばいいんだけど…（汗）

C群

トイレのない家を今更持ち出さな 村上あつこ
私の死骸公園の花筏 守田啓子
ヒロサキ・タンガレ・ロウロウカイゴト 奈良一穂
アレクサはハシビロコウになったのか ひとり静

村上あつこさん、え？え？え？「トイレのない家」ってあるの？「家」って、風呂はなくても「トイレ」だけはあるものだと思うんだけど…（汗）あつこさんの言いたいことは、たぶんそうじゃないんだよね。これは比喩で、なくてはならぬものがない、そんな基本がちゃん

としていないものを「持ち出すな」ってことだよね。いろいろな言い方があるものですね。

守田啓子さん、この句なんだかおっかないね。前半の「私の死骸」がとにかく怖い。その「死骸」を「公園の花筏」の中に見つけたのですか…。この句の「花筏」は、ハナイカダ科（ミスキ科）の落葉低木ではなく、花が散って水面に浮かび流れるのを筏に見立てていう、あれでしょ？啓子さんは、未来を見る能力があるらしい。

奈良一艘さん、「ヒロサキ・タソガレ・ロウロウカイゴ」は漢字にすると「弘前・黄昏・老々介護」ですよ。『弘前』は一艘さんの住んでる市、「黄昏」は人生の黄昏、「老々介護」は介護する人も介護される人も高齢者ってことで、「ゴ」はこの句に節をつけ歌っているってことでしょうか？もしかしたら「よこはま・たそがれ」（歌：五木ひろし、作詞：山口洋子、作曲：平尾昌晃）のメロディーだったりしてね（笑）要するに、奥様を介護しながら、人生の最終コーナーをそれなりに楽しんでるというこのようですね。ガンバレ・イッソー！

ひとり静さん、「アレクサ」を使っているんですね。私は「アレクサ」が何であるか知らなかったので、ネッ

ト検索しました。そうしたら、あるサイトに「Alexa」はAI音声認識サービスです。AI音声認識サービスは、Microsoftの「Cortana」、Appleの「Siri」、Googleの「Google Assistant」などがありますが、「Alexa」はAmazonが開発したAI音声認識サービスです。正式名称は「Amazon Alexa」です。「アレクサ」と話しかけるだけで、天気を聞けたり、検索したり、ゲームをしたり、家電と連携することもできます。Kindleで購入した書籍の読み上げや、Amazon Musicからの音楽再生も可能です。2017年に日本でも提供され、家庭に普及しました。」とありました。便利なものですね。「ハシビロコウ」は私でも知っています。広辞苑に「はしびろこウ【嘴広鶴】ペリカン目(旧コウトリ目)ハシビロコウ科の鳥。体長約1.2メートル。嘴(くちばし)が幅広く大きい。アフリカ中部に生息。魚食性で、水辺で長時間動かずに待ち伏せる。」とある、あのじつとしている鳥ですよ。そこで、句ですが、「アレクサ」が「ハシビロコウ」って、静さんの使っている「アレクサ」が静さんの言うことをなかなか聞いてくれないとなった、ということですよ？AIもストライキ権を持つてるのかな…。

おかじょうき川柳社会員雑詠集

無人駅

★無人駅4月月間賞

やさしくてさみしくてまちのすみっこ

鳴海賢治

金瀬達雄

〔かなせたとつお・富山県高岡市〕

大天使イクサの臍にモグサ灸
悲の高さ競う噴水なみだ教
泡立った人から順にバーコード
米を研ぐ無洗米だと知りながら
ポケットの六文銭とひた走る

先月号のお気に入り
寂しがりやなのに一人になりたがる 城後朱美
同じタイプです

きさらぎ彼句吾

〔きさらぎあくあ・青森県弘前市〕

欲しい言葉が海になるまで見つめあう
海月になってゆくあの日のゆびぎり
サヨナラと並んで歩く油照り
追憶たゆたせる葉桜のうなじ
月皓々水が騒いで眠れない

先月号のお気に入り
外観で言えばアアよりパホイホイ ひとり静
「パホイホイ」お友達になりたいなあ。

坂本清乃

〔さかもときよの・青森県蓬田村〕

やる気出す朝の定番卵かけ
いつだって大事な事は水びたし
あれからは阿・吽を無くした春彼岸
春風の音符に揺れるふきのとう
野仏の耳にイヤホンつけてやる

先月号のお気に入り

笹田隆志

〔ささだたかし・青森県青森市〕

辞書を食べう般若心経わかるまで
ヒトが散る上野のパンダ散ってゆく
人喰いザメがダリの背広を食いちぎる
六番地でサルバトーレが嗤ってる
さくらさくら助六持って宙を翔ぶ

先月号のお気に入り
パラフィン紙の向こう助演男優賞 岩根彰子
段ボールの向こうの助演女優賞は誰でしょう

熊谷冬鼓

〔くまがいとうこ・青森県青森市〕

これきりの青いトビラを手に入れる
葉桜でいるのも一人で起こすのも
端っこで踏まれて咲いてカキドオシ
靴ひもはキリリと5月の柔らかさ
戦地は累々ダリの時計は乾かない

先月号のお気に入り
10字以内でしつげんをうめなさい 四ツ屋いずみ
10字としつげんが挑発的

斎藤泰子

〔さいとうたいこ・秋田県大館市〕

白になるうなんて言うからつらくなる
不安感袋の底の粒のよう
赤い実を分け合った日が遠くなる
お先へどうぞ風と遊んでいますから
ラッセラッセラッセラー龍の鱗が立ち上がる

先月号のお気に入り
夫の背に隠し包丁を入れる 夏草ふぶき
すごい！この技使える！効果の程を聞きたいデス！

芝岡かんえもん

〔しばおかかんえもん・神奈川県横浜市〕

手のひらで背伸びはじめた涙あり
六畳一間名刺を抱いて寝るダルマ
騙そうと言葉の春がめくれだす
よく動く時の尻尾が掴めません
真っ直ぐに飛べない翼おり畳む

先月号のお気に入り

城後朱美

〔じょうごあけみ・福岡県八女市〕

ひっこ抜かれた大根の恥ずかしさ
大根の穴から感謝されました
大根はひとりよがりで嘘つきで
裏切った大根だらう青くなる
大根が迷子になった被告席

先月号のお気に入り
母ちゃんよおいらを忘れないでくれ 灘尻善英
時々、私はだれ？と母に聞いてます。

須藤しんのすけ

【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

遺影の裏側全裸で踊る月
満員の電車でシリウスを拾う
もう少し右に寄つたらガターです
街角の黒服 風は南風
課題曲だった「らしさ」をラララで歌う

先月号のお気に入り
ドローン曰く、俺のイメージ悪くなる 金瀬達雄
ドローンと話したことはありませんが、色々大変みたいですね。頑張ってください！

瀧尻善英

【たきじりよしひで・青森県八戸市】

胴上げが続く雲の上の歓喜
メデューサに釘づけされた金縛り
裏切りの川でアナタの腹を読む
関節を撫でて気迫が突き進む
しっかりと負けを認めてカッコイイ

先月号のお気に入り
そしてまた愚かな笑みの中にいる 葉閑女
失笑されてもいい……。自分の信念を貫くことさえできれば。

田久保亜蘭

【たくぼあらん・秋田県五城目町】

落ちこぼれになつて気づくレモン味
一人だけヌー出て行き戻らない
穴ひとつ掘つて死ぬ場所を決めておく
もう戻れない世界の地図を燃やしちやえ
社からホームベースが遠いんだ

先月号のお気に入り

田中 薫

【たなかかおる・青森県弘前市】

さよなら白鳥おかえり子ども達
旅支度そつとアレを秘めておきましょ
都会式葬式という諸事情とは
緑黄色野菜月が良く見える
夕日から反省朝日から希望

先月号のお気に入り

旅男

【たびお・青森県五所川原市】

お金かねお金金金おつかねえ
成り上がりたいうら下がりのつけ上がり
ふざけるなつて弁護士いますよねえ
今年の雪は腰がないねムッシュマロ
??? 「迷い爺のお知らせします」 ???

先月号のお気に入り
溜め息で壊してしまう空気感 斎藤泰子
とっておきの手、ですね。あゝあ。

辻井洋子

【つじいようこ・青森県青森市】

寄りかかるスマホに畳む水平線
うつせみのアプリの肥満気にかかる
あなたから春のキラキラ探します
食パンの厚さと比例する頭脳
春彼岸迎えに行こう四股を踏む

先月号のお気に入り
金太郎飴 あなたの顔はもう飽きた 米山明日歌
年老いて変貌するのも味なもの、ですね。

土田雅子

【つちだまさこ・青森県青森市】

恋はにびいろ欲望果てるまで
脆弱を望むなら色は求めない
鍛練の末煩惱はピンク色
透明になる日までは漆黒をまとう
丸文字で『通過点』つて降りてきた

先月号のお気に入り
重箱の四隅で骨折しましたの そんなとき、ありますよね！ 岩根彰子

夏草ふぶぎ

【なつくさふぶぎ・青森県青森市】

桜咲く狂喜乱舞の無言劇
サーカスも見世物小屋もカチューシャで
足枷が外れないのよ石畳
照明に照らされるのが偽の月
喪が明けて大盤振る舞いする桜

先月号のお気に入り
こんな満月たった一人で見上げてる 柳本恵子
誰かと一緒に見たいような見たくないような。

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

イマジンをだらだら零す夜のくちびる
アヒージョになるかバルタン星人になるか
直立不動の国歌斉唱ならダウト
知らぬ間にいつの頃から白髪葱
ヒロサキ・タソガレ・ロウロウカイゴ♪

先月号のお気に入り
10字以内でしつげんをうめなさい 四ツ屋いずみ
湿原なら埋めてあげるけど失言はなあ…(汗)

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

風の便りでちいさなものとみつけた
半分は残す半分風引いた
本当のことを知ったら逃げちゃった
桜が咲いた戦争は終わらない
風呂敷を広げて鯉の滝登り

先月号のお気に入り
三丁目あたりに落ちた資本主義 村井規子
おもしろい。

まぎやん【まぎやん・青森県青森市】

百均に並ぶ私の一部分
溺れると知って飛び込む空の青
ペンネームお祭り好きよとしておこう
吐きだそう遠い昔の通り雨
炎上の辞典一冊隠し持つ

先月号のお気に入り
空き瓶に濁流入れて持ち歩く 坂本清乃
その濁流いつどこでぶちまけるのですか。とっても楽しみです。

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

穏やかで活力さえも出てこない
だらだらと春には似合わない歩幅
日差しにも事情があつてまだヒヨコ
そろそろと飛ばうか新しいメガネ
サプライズお待ちしてます空けておく

先月号のお気に入り
毛並みから見ないで欲しい幸福度 辻井洋子
そつよねえ、比例するとは限らないもの。

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

いま心こぼれてますよお茶いかが
春よ来い命令形もいいもんだ
届いていますかアリバイありますか
違うとしか言えないリアス式海岸
アレクサはハシビロコウになつたのか

先月号のお気に入り
そしてまた愚かな笑みの中にいる 葉閑女
もう愚かになつた方が楽なのかもしれない

ひらく【ひらく・青森県蓬田村】

田酒一献寝相の悪い猫が右
黒猫の野生広辞苑のトリセツ
上腕筋枕に猫は軒かく
朝ぼらけ王子様からキスマール
テレビ電話に写る私の目尻

先月号のお気に入り
やさしさを集めて寒い冬越える 柳谷たかお
ありがとございます

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

原点に還る外れくじのままで
慰めて欲しくて降らす酸性雨
愛しいと思えば真つ白い童話
思えば遠くまで来た運命の欠片
引出しの隅で止まつている時間

先月号のお気に入り
じゃが芋の発声練習始まるよ 熊谷冬鼓
今年の種芋にするじゃが芋の芽が出てきましたよ。発声練習の最中です。

宮井いずみ【みやいいずみ・大阪府大阪市】

生け贄をたべた女神のへその向き
ブレーキとアクセル逆走するメロス
せせらぎに第五腰椎盗まれて
じとじとのジニ係数と蒲公英と
眨さない眨さないからチョコメント

先月号のお気に入り
大海のごきげんようを真に受ける 吉田吹喜
怒り出したら恐いと知っているのに、つい気を許してしまつたよ。

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

反省も検証もない思いつきだけ
トイレのない家を今更持ち出さな
自己責任でマスク外せと言われても
日替わりのヒーロー日本世界一
泥沼に嵌まったプーチンの戦

先月号のお気に入り
取り敢えずの分だけ出しておく気力 土田雅子
同感です。

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

九十才まだ戦うつもり日は西に
あと五年まだあと五年と白寿まで
カルチャーで希望の星とオダテラレ
九十才戦いやまず日は暮れる
指定席亡夫に頼んでとつておく

先月号のお気に入り
人の眼がまだ気になっている若さ 村井規子
どつてもいいと云うのは嫌いです。人の眼を気にして背
すじピンとして生きたいものです。

柳谷たかお【やなぎやたかお・青森県外ヶ浜町】

満月の命一日愛おしい
待つて待つて待つて満月雨の中
ふるさとの駅で一両列車待つ
こんな僕を月が支えてくれている
星々に見つめられてる頑張ろう

先月号のお気に入り

葉 閑女【ようかんによ・青森県青森市】

涙目の中で時計がカッチンカッチン
一本の杖が運んでくる寓話
スピードのジャックが悪さばかりする
返信が暴き出してる氏素性
行く春を掬えば君の誕生日

先月号のお気に入り
ニワトリとハトが仲良くなる時計 安藤なみ
その時計、私もほしい。

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

私の死骸公園の花筏
関節を鳴らせば開く玄冬期
もう親のいないべつこう色の梅酒
天せいろズルズルあなたとは他人
実家売却その後のぐわ〜んぐわ〜ん

先月号のお気に入り
10字以内でしつげんをうめなさい 四ツ屋いずみ
「しつげん」「うめなさい」が意味深。

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

手ざわりは微妙コントラスト高めの朝
もう会えぬ人だから少しやさしくする
過呼吸気味のスタートラインに立つ
情報過多スマホの中にあるカオス
春の出口をさがしています

先月号のお気に入り
米を研ぐ明日の命予約して 上村夢香
命を繋ぐってこんな何気ない毎日の積み重ねだね。

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

ひと握り闇を信じてから花に
桜ほろほろ消えぬ記憶の外側に
酩酊の理路整然とはずす籬
昨日まで椿な日々があつたのよ
新しい下着新しい朝を着る

先月号のお気に入り
微笑みにくるんで嘘を薔薇にする きざらぎ彼句吾
それくらい へっちゃらです。

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

ソメイヨシノ満月と微笑み交わす
一回しか効かないマハリクマハリタ
固いこと言うなよズブズブズブズブ
反撃だ蛇の気分だシュッシュッシュッ
まことしやかな数字の説得力

先月号のお気に入り
一月じゃないか鉤括弧を外せ 石橋芳山
は〜い。

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

一番に咲いているのはヒマラヤユキノシタ
ダリの宮殿の番兵は髭直立す
あと十分あと十分と春のフライパン
瞑るのは片目夫婦だけじゃない
花の芽に逆光マスク不要にも

先月号の
お気に入り

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

豊満なレモンケーキにや敵わない
米粉パンでケリつける準決勝
つい小声に昭和と口にする刹那
ささくれた夜だ緋毛氈を敷こう
喋るのが億劫になってきた春で

先月号の
お気に入り

米山明日歌【よねやますか・静岡県長泉町】

罨でしよう穴から覗くものがない
球根よ見てきた事は土に吐け
緑なら切り取り線の向こう側
銃声のあとの口元みえています
引く役から足す役になる春の指

先月号の
お気に入り

安藤なみ【あんどなみ・愛知県瀬戸市】

爆風の下に小さな子守唄
脳トレという新薬を買ってくる
十三階の干し布団にも夜の雨
条件を呑んで花咲く中古品
主語のない秘密に顔を近づける

先月号の
お気に入り

熊谷冬鼓
じゃが芋の発声練習始まるよ
発声練習が、いいですね。男爵 キタアカリ、メークイン。
どの子がいい声だすのかな。

お客様の中にワタシはいませんか？ Sin
楽しんで！

石橋芳山【いしばしほうざん・島根県松江市】

なぜそこが泡立つ骨壺が揺れる
日曜のヒダのところを二周半
生い立ちと言えば曲がった五寸釘
ボコボコと泡立つギラギラな話
フリンジの付いた夜空がこそばゆい

先月号の
お気に入り

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

国境のあちら側にも春霞
戦から戻って来ない砂時計
跳び箱の二段目からは霧の中
春の野に春の軍団やって来る
塹壕の隅で咲いてるフリージア

先月号の
お気に入り

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

開店の匂いヒト科とは凹み
アイライ太つ昭和の喫茶店
焼きおにぎり喰う木屋町石畳
ペタペタスリッパ食間水クスリ
水玉の杖で胎内巡り中

むさし【むさし・青森県蓬田村】

ネットショップに並ぶモアイ像の鼻ピアス
九条にフリルハシボソガラスに黒マスク
籬壇の裏のミサイル発射基地
晴れた日の音痴だらけの合唱団
ハミングをしている半跏思惟像

先月号の
お気に入り

米山明日歌
水飴になってしまった水たまり
水のリフレイン、水飴、水たまりどちらの粘っこさ。アッ
プでも引きでも堪えられる作品。

のあたりで
待っている

4月1日(土) 午後1時～ アウガ5F小会議室

▼出席者(12名)

きさらぎ彼句吾・熊谷冬鼓・渡邊こあき・葉閑女・守田啓子・
田中薫・夏草ふぶき・笹田隆志・原口健二・野沢省悟・むさし・
須藤しんのすけ

▼投句者(21名)

安藤なみ・金瀬達雄・米山明日歌・柳本恵子・宮井いずみ・岩
根彰子・吉田吹喜・旅男・鳴海賢治・まきこ・高木まあこ・土
田雅子・村上あつこ・石橋芳山・城後朱美・吉松澄子・郷田み
や・坂本清乃・まみどり・斎藤泰子・笹田かなえ

先月号の
お気に入り

無人駅は自由な発表の場です。
未発表作品5句をお寄せください。
また、お手元の最新号から
お好きな作品とそれに対する
簡単なコメントもお寄せください。

宿題『むさしり』

青森県弘前市 きざらぎ彼句吾選

【佳作】

それじゃあねってこれっきりのひと 熊谷冬鼓
 別れ際さらりと歌うレクイエム 夏草ふぶき
 椿落つ一筆箋で知る訣れ 熊谷冬鼓
 年金をさらりと溶かす春の雨 野沢省悟
 うふふつとコケシは去つてゆきました 野沢省悟
 アメージンググレースさらりなんて無理 守田啓子
 逢引きの日の日めくりが湿りだす 夏草ふぶき
 久々の会に優しい桜雨 渡邊こあき
 飛んでくる視線かわして飲むコーヒー 渡邊こあき

雨、涙、雨、雨、涙、雨、涙。 須藤しんのすけ

満月の裏でサラリと泣いて来た むさし

ろくすっぽピントケアせず芽吹いちゃう 守田啓子

襟足に熊野古道が延びてくる むさし

夕日が沈むいつもと同じ音させて 須藤しんのすけ

流し素麺的ハシビロコウをご存知か むさし

【秀逸】

汚名返上さらりと月を買いに行く 笹田隆志
 じいちゃんになるとときどき水になる 野沢省悟
 加齢臭はない油っ気もない 今 田中 薫

【特選】

さらさらがどんなかザラメ雪に聞く 田中 薫
 1 さらさらだった頃、愛されていた頃。

宿題『むさしり』

青森県青森市 熊谷冬鼓選

【佳作】

誤解ですさらりと忘れてくださいね 原口健二
 アメージンググレースさらりなんて無理 守田啓子
 別れ際さらりと歌うレクイエム 夏草ふぶき
 ろくすっぽピントケアせず芽吹いちゃう 守田啓子
 男ってバカねでも可愛いかもね 須藤しんのすけ
 大ぼらを吹いてサラリと人込みへ 葉 閑女
 汚名返上さらりと月を買いに行く 笹田隆志
 流し素麺的ハシビロコウをご存知か むさし
 嘘を舞う墮ちる先など気にしない きざらぎ彼句吾

久々の会に優しい桜雨 渡邊こあき

約束をさらりと解き編み直す きざらぎ彼句吾

うふふつとコケシは去つてゆきました 野沢省悟

逢引きの日の日めくりが湿りだす 夏草ふぶき

じいちゃんになるとときどき水になる 野沢省悟

夕日が沈むいつもと同じ音させて 須藤しんのすけ

【秀逸】

年金をさらりと溶かす春の雨 野沢省悟
 満月の裏でサラリと泣いて来た むさし
 薔薇の花弁さらりと脱いで米を研ぐ きざらぎ彼句吾

【特選】

雨、涙、雨、雨、涙、雨、涙。 須藤しんのすけ
 1 大胆な作り方に驚いた。人生のところがどこにある涙。

宿題『折る』

青森県青森市 野沢省悟選

【佳作】

さよならを切るか折るかで悩んでる
折れたのは心 折ったのもココロ
三つ折りが苦手で方向音痴で
魂がブラックホールを折り曲げる
ライオンの熟睡 折り紙にされてから
丁寧な折るから逃げていくお金
役回り折り畳み傘ほどがいい
制服の中で小さくなる論吉
緋袴の折り目に隠す破瓜の音
折り返し過ぎて一気に病だれ
鯖折りで倒されたいと想う春
手折るまで柔軟剤に漬けとけば
雑念を混ぜてはならぬ千羽鶴
折りたたむまでがわたしの仕事です

夏草ふぶき
きさらぎ彼句吾
笹田かなえ
夏草ふぶき
宮井いずみ
城後朱美
熊谷冬鼓
城後朱美
須藤しんのすけ
村上あつこ
金瀬達雄
安藤なみ
まみどり
鳴海賢治

折るだけでまずいだらうと輪ゴムくる

折り鶴のゲノム解けば直江兼続

折り折りの風の匂いをしるポスト

挫折したことなどみんな掻き揚げに

古傷といつかは話せますように

つまびらかにしてみる鎖骨の折れた訳

【五客】

空を折る砲撃 春は消えたまま

折れ線が少しズレてる今日の空

菓子折りの底には何もなかったわ

私が折れて震度が2で終る

折り紙のプテラノドンの闇バイト

【人位】

ヒロシマで鶴を折れるかG7

【地位】

折り合いがつかず金魚のままにいる

【天位】

円空仏の髯にかけこむ素手素足

●庶民は身心を折って仏に願いを込める。素手素足がイイ。

坂本清乃

むさし

米山明日歌

吉松澄子

斎藤泰子

土田雅子

宮井いずみ

村上あつこ

吉松澄子

渡邊こあき

むさし

原口健二

原口健二

吉松澄子

きさらぎ彼句吾

宿題『円』

青森県蓬田村 むさし選

【佳作】

かごめかごめ円陣の中の一人ぼっち
おトイレと言って円陣から抜ける
円陣の中ですととても暖かい
病名は円周率の依存症
あんぱんも地球も乳房には負ける
同心円になりませんかと誘われる
横柄な連休明けの膝頭
祭終え少しいびつな月といる
完璧な円を貰ってから不眠
生真面目で歪な円を描きたがる
円周率は3 熟年の恋だもの
気になるわ左手首の索状痕
次々と花輪 死んではいけないのに
カオナシが山手線からまだ降りぬ

坂本清乃
斎藤泰子
まきこ
吉松澄子
野沢省悟
吉松澄子
岩根彰子
葉 閑女
きさらぎ彼句吾
城後朱美
守田啓子
土田雅子
葉 閑女
野沢省悟

あの○は邪馬台国の空である

丸よりも楕円の方がウソくさい

やっと思つた円周率の終わり方

ぐれてる五円に穴が開いてない

たましいを輪ゴムで巻いたことがある

一円が足りない家へ帰れない

【五客】

コンパスの軸にしている笑い顔

輪切のリングふるさとを聞いてみる

茹で卵何処を切ってもお義父さん

覗いても五円なんです穴だから

手の平の水たまりだけ消えませぬ

【人位】

落ちそうなくでんぐでんの月がいた

【地位】

水色をまた閉じ込める楕円形

【天位】

卵管を辿って嘘は満月に

●そうか…嘘って満月になるのかあ…。

守田啓子

原口健二

笹田隆志

石橋芳山

野沢省悟

渡邊こあき

まみどり

坂本清乃

岩根彰子

郷田みや

米山明日歌

夏草ふぶき

夏草ふぶき

夏草ふぶき

笹田かなえ

笹田かなえ

きさらぎ彼句吾

宿題 『自由詠』

青森県弘前市 須藤しんのすけ 選

【佳作】

ニコニコと三角中で角隠し 村上あつこ
 母さんの小石さておきオムライス 守田啓子
 独裁者連れて青空ふたり旅 金瀬達雄
 瞬きをするな夜汽車の過ぎるまで 宮井いずみ
 黒こしょう振ると白状しだす春 土田雅子
 天敵のひとつにあんぱんの臍 岩根彰子
 オフレコをあちらこちらにちりばめる 安藤なみ
 燃えました二度と再生できません 柳本恵子
 春だ春だと乱舞したがる血糖値 むさし
 意見が一致なりません 帰ります 鳴海賢治
 脱皮したへびの明日は見たくない 城後朱美
 ひらひらの食感とまどう五感 吉田吹喜
 3匹のメダカ倒立試みる 岩根彰子
 戦争のニュースのあとのホームラン 夏草ふぶき

プライドはありますグラニュー糖です 吉松澄子
 つぶやきに独り歩きをされちゃった まみどり
 晴れた日の袋小路ならいいか 熊谷冬鼓
 余熱まだありますひとり駅に居る まきこ
 その日にもやっぱりしてる日焼け止め 米山明日歌
 主語だけを殴ってしまう癖がある 米山明日歌

【五客】

早くなるメトロノームの辞世の句 笹田隆志
 真似するとかしゃみが出ます足の裏 郷田みや
 スタバのレシート謎解き終わらない 城後朱美
 病床の白夜明けてもまた白夜 きさらぎ彼句吾
 母さんのふりして所詮さくら餅 守田啓子

【人位】

常温に戻すと満月になった きさらぎ彼句吾

【地位】

教会の鐘も時々嘘をつく 夏草ふぶき

【天位】

もやもやのやものあたりで待っている 野沢省悟
 『迷子になりました。少し遅れます。』

奈良一艘がとことん深読む

深艘心理

いのちいぢひとひとひのひもをひく

旅男

(会員雑詠集 無人駅3月号より)

前触れは色々あったのだが、昨年の9月、連合いがパーキンソン病の一種である「多系統萎縮症」という難病と診断され、最初は杖をつきながらも一人でトイレへ行けたのが、あれよあれよと半年も経たぬ間に現在は寝たきりの「生身のリカちゃん着せ替え人形」となり果てて、在宅老々介護をしている。予定では、七十六歳、大酒飲みで喫煙者、糖尿持ちで夜更かし無頼派、前立腺肥大老人の私の方が先にそうなる筈だったのだが、逆の立場となり、こちらが介護する立場となってしまった。うーむ、神様の順番は実に非情なのだ。

で、掲句だが、全部ひらがな表記である。漢字で表せばどう書くのだろうと、暫し悩んだ。

命維持費とヒヒと火の日喪を弾く

ん、なんじゃこれ？ そんな訳はないだろうと、よくよく考えたら閃いた。

命維持一日一日の紐を引く

ふむふむ、なるほどなるほど。そーゆーことか。作者が敢えて漢字で表記せず、ひらがな表記としたのは「い

と「ひ」の韻を踏み、異常で非情な「命の虚しきと人間の温かさ」を表したかったからに相違ない。最近では私よりも年下で、かの有名な坂本龍一さん(71)や、中華の鉄人陳健一さん(67)、帰ってきたウルトラマンの団時朗さん(74)などまだまだまだ活躍して欲しい人々が次々と亡くなってショックを受けているのだが…これだけは順番通りには行かぬらしい。

そもそも「命」という漢字は「口」と「令」という字からなる会意文字。詳しいことは端折るが、神の命令という有無を言わせぬ重さが含まれているのだそうで、ときに子孫誕生の喜びをもたらし、ときに事故、災害や病で無情に死をもたらす、人にはどうしようもない神からの言い付けなのだろう。

老老介護などと嘆かずに、一緒に居られる幸せ、美味しい酒を飲める幸せを神に感謝し、一日一日の幸せの紐を引こうではありませんか。ねえ旅男さん、深い句をありがとうございます。

川柳吟行会「ぼ」課題『食べる』

今回の課題「食べる」で思い出した句がある。

川柳を始めてしばらくして、石原青龍刀の『食うことのほかは虚脱にまかせたり』という虚無感が漂う句に出会った。作者は終戦で中国大陸から帰国してから生活に大変苦労したらしい。句を通して作者の悲しみ、怒りに触れたようだった。(五郎)

【7点】特×2 佳×3

三月のりんごあるいはノクターン 笹田かなえ

【州花】句を少し過ぎた林檎の芳香。ノクターンの優しさに抱かれた。【いずみ】三月は林檎の旬の終わり。少し感傷的になる。ノクターンのように。【与生】春は曙なので夜想曲という雰囲気じゃないし3月のりんごも時期はずれ。今はその気になれないものたち。【冬鼓】だからどうだと言つてないのいい。春の室出し林檎には癒

なる予感。平仮名だけの仕立てが巧い。【こあき】こもれびを飲みこめてラッキーでしたね。ひらがな表記が温もりを感じさせます。

【6点】特×1 佳×4

いつだるうベリージョエルを食べたのは 夏草ふぶき

【かなえ】ハマった理由もいつ頃かも覚えていないのに、心は素直に反応してしまう。解る！「食べる」がいかに夢中だったかを物語っている。【彰子】口語体の言葉のチョイスの成功例。【達雄】ベリージョエルは涙が出るほど美味しいですね。【いずみ】青春時代に食べたベリージョエルは美味しかった。【隆志】私もその昔、ベリージョエルに夢中でした。

生きている時どきパセリ噛みしめて 吉見恵子

【柳本恵子】パセリつて栄養あるけどチョット苦い。時どき苦いけど、みんな頑張っているんだな。【さち】栄養を考えて好きじゃないけど、時々齧ります。【いずみ】パセリの独特な味と香りでシャキッとするのですよね。【啓子】パセリの苦味も過ぎてみれば思い出。【五郎】納得感のある取り合せ。

しが。【五郎】ゆるやかで不思議な雰囲気か漂う。

【6点】特×3

群像劇で食う味のない茶漬け 月波与生

【善江】一人ひとりにスポットの当たる群像劇ですが、大方は、箸だけ動かして「味のない茶漬け」を啜ろうとしています。視点が素晴らしいと思います。【彰子】群像劇と茶漬けの距離に川柳ならではの味付けを感じた。【五郎】さまざまな状況を想像させ刺激的。

うっかりとのみこんじやったこもれび 滋野さち

【達雄】拙句と発想は同じなのですが、「こもれび」を食べようとまでは思い至りませんでした。最高の食だと思っています。【冬鼓】木漏れ日は暖かく優しい。癒しの代名詞。飲み込んでからうっかりだったと気づく。面倒なことに

【4点】特×1 佳×2

年上の人あなたをギユツと食べ尽くす 須藤しんのすけ

【規子】大人になるために年上を数え切れないほど食べてきた私。何人食べても大人にならない。【彰子】ギユツは言い過ぎかも知れないが許せる。【文音】願わくは年功序列ですね。

履歴書を破った過去で食いつなぐ 笹田隆志

【文音】食いつなぐための選択に職を蹴る勇氣、過去で食いつなぐ勇氣。大丈夫なんだよね。【吉見恵子】そんな経験を含めて諦めなかったから、今に命が繋がっているのですね。【かなえ】遠い昔、子供の通院のために有給休暇を取る度、嫌味を言われたのを思い出しちゃった。

【4点】佳×4

たくあんと私 どちらと暮らします 吉田州花

【しんのすけ】沢庵でいいかなあ？たぶん怒ると思うけど。【与生】一生たくあんを食べない人生も辛いのでたくあんを選ぶだろうな。【吉見恵子】迫力に負けました。糟糠の妻と私の選択を迫っているのですか。【啓子】離婚には発展しない程度の夫婦喧嘩を楽しく表現している。

【3点】特 x 1 佳 x 1

牛乳は嘔んで縁者は啜るもの

岩根彰子

【啓子】面白い表現。親戚付合いのトリセツですね。【冬鼓】縁者(姻戚)は嘔めない。「啜る」は作者独自の感覚的表現。

ぶりこ嘔む舌に広がる日本海

小野五郎

【吉見恵子】子供の頃たくさん食べました。「日本海」の飛躍がいいです。【州花】知る人ぞ知るぶりこ。

こだわりはTKGのKあたり

笹田かなえ

【しんのすけ】T(たまご)K(かけ)G(ごはん)のKに特化するなんて、もはや変態の域。謎かけのような作りが素敵。【朱美】Kあたりに、なんだか納得してしまう。

【3点】佳 x 3

体重の半分以上親の脛

村井規子

【ふぶぎ】親への愛情を感じる面白みのある句ですね。【達雄】少子化が進むことを考えると幸せな句だと思えます。

【隆志】体重の半分以上が親の脛なんて立派な脛齧りに溶けていきます。

【2点】佳 x 2

食物自給できない国が偉そうに

宮井いずみ

【さち】食料自給に程遠く、被爆国なのに原水爆禁止も小さな声でマツタク。【規子】この句はまさに一読して納得でした。国防費を上げる前にこつちが先。

箸使いきれいと月に言わせたい

熊谷冬鼓

【善江】孤食でしょうか…。でも、お月様だけは見守ってくれています。【州花】箸の上げ下ろしを見れば、とは怖い。

命日の父と大福食べている

守田啓子

【ふぶぎ】叶わない願いだけど悲しくも心温まる句。【こあき】生きてるときに一緒に食べたかった！

【1点】佳 x 1

和菓子にはコーヒーが合う絶対合う
真夜中のカップヌードル評は詩人

金瀬達雄
小野善江

【2点】特 x 1

オペ終わり薄透明の二分粥よ

柳本恵子

【朱美】情景が目浮かびます。母の胃がん、夫の肺がん、オペの時間の長いこと。一日一日が治療である。

カヌレぱくつ流行のしっぽつかまえた

渡邊こあき

【与生】「流行の」とあるがカヌレ・ド・ボルドーは歴史のあるお菓子。しっぽがある中世のお菓子という視点面白い。「ハウルの動く城」の情景と似たものを感じた。

年金てきつと霞の事なんだ

村井規子

【さち】綿菓子のようなものです。口に入れるとあっけなく溶けてしまう。おまけに老人は集団切腹しろなどと!!!

いい人といい風景を食べて寝る

金瀬達雄

【ふぶぎ】心休まる人と一緒にいるのだろうか、心地よい風さえ感じます。軽やかな気持ちになる句ですね。

冬期限定チョコ手の中でとける春

柳本恵子

【隆志】冬期限定のチョコを手の中につつむと春がまき

春を食せば光とかぜのミルフィーユ

吉見恵子

美人アナなのに食レポつまらない

城後朱美

納豆を掻つ込む膝頭が痒い

岩根彰子

カップ麺の罪を軽減するトマト

夏草ふぶぎ

エクレーとどこでいくつで出逢ったか

吉田州花

すんなりと春にならない生にしん

渡邊こあき

産んだ子に施設の母は飯を炊く

守田啓子

『3月吟行会後記』

コロナ禍により中止していたリアル吟行会だが、昨今の感染状況を勘案し、十分な感染対策の下3月16日に開催した。今回の参加人数は21名と多く、期待感の強さを感じる。吟行コースの弘前市立博物館(ダリ展開催中)にて約1時間の鑑賞・作句を終え、句会会場「よしじん」へ移動。参加者の協力により投句の清書等スムーズに運んだ。13時15分句会開始。最初は時間配分を気にし選評を聞くだけであったが、和やかな雰囲気と歯に衣着せぬ意見のお陰で、あちこち脱線しながらもなんとか進行出来た。核心を突いたコメントや独自の解釈の発表により各句が生々しく感じられ、また、成功・失敗の体験談等の雑談により、作句や吟行のポイント、ヒントが散りばめられた活発な互選会となった。(しんのすけ)

十和田たてがみ川柳会三月句会

○日時 令和五年三月十八日(土)

○場所 十和田労働福祉会館

○参加者 久保あざみ・斉藤蛙井・佐藤まさあき・

瀧尻善英・中村英三・村上昌子・高田幸柳

○投句者 磯島雅男・木村奈生美・城後朱美・福田芳記

■席題『天』 高田 幸柳 選

【平抜き】

ヤバイですお天道様怒らせちゃ

村上 昌子

今スマホ昔は空の機嫌見た

村上 昌子

駅前の天ぷらそばに励まされ

久保あざみ

金天下回る筈だがまだ来ない

村上 昌子

どうするか天に唾吐く政治家で

斉藤 蛙井

お天道様に胸張り生きている

瀧尻 善英

【秀逸】

それ以上褒めるな天に届く鼻

瀧尻 善英

天仰ぎ外れ馬券が宙を舞う

佐藤まさあき

【特選】

この天気テークアウトをしてみたい

瀧尻 善英

■席題『天』 瀧尻 善英 選

【平抜き】

今スマホ昔は空の機嫌見た

村上 昌子

ヤバイですお天道様怒らせちゃ

村上 昌子

喧嘩して天使に見える愛犬が

久保あざみ

天仰ぎ外れ馬券が宙を舞う

佐藤まさあき

駅前の天ぷらそばに励まされ

久保あざみ

努力して掴んだチャンス天に謝す

中村 英三

組織では何も言えない天の声

高田 幸柳

【秀逸】

大谷に点は二物を与える

佐藤まさあき

旅だつ日ふるさとの空忘れない

斉藤 蛙井

【特選】

世界中空は等しく青いのに

高田 幸柳

■宿題『転倒』 久保あざみ 選

【平抜き】

孤立無援転ばぬ先の杖もなし

佐藤まさあき

ハラハラドキドキ八十のピンヒール

城後 朱美

半世紀越えて捏造覆す

村上 昌子

東京へ寒波転倒注意報

高田 幸柳

えふりこく転倒の度にクレーター

磯島 雅男

転倒を堪えた登山後遺症

高田 幸柳

転倒し一緒に走った月を見る

中村 英三

強かな婆さん転び藁掴む

村上 昌子

千鳥足転びそうでも転ばない

佐藤まさあき

転んだら初めて見えた人のヤミ

斉藤 蛙井

転んでも泣かなくなつた親離れ

高田 幸柳

【秀逸】

ロシア軍報復理由すべて逆

福田 芳記

あと一步そこで私はいつも転け

瀧尻 善英

【特選】

人生の七転八起を越えた皺

佐藤まさあき

■宿題『定年』 斉藤 蛙井 選

【平抜き】

定年がなくて元氣な主婦でいる

村上 昌子

机には花一輪の定年日

城後 朱美

一日が長く感じる定年後

久保あざみ

定年の朝妻無言で靴磨く

佐藤まさあき

定年と言う耳鳴り同居中

磯島 雅男

何処までも密に鼻効く天下り

村上 昌子

盃を伏せて再任用はせぬ

瀧尻 善英

定年を向かえてからが試される

久保あざみ

定年も無く一生を農に生き

佐藤まさあき

定年の安堵が遠くなる政治

高田 幸柳

定年で自分の時間はばたくぞ

中村 英三

それからはキミと余白を埋めている

瀧尻 善英

定年後自由の森に入り浸る

木村奈生美

【秀逸】

わたくしの顔に戻れる定年後

木村奈生美

定年へ引き算だけの暮らし向き

瀧尻 善英

【特選】

定年ではばたける人ちぢむ人

中村 英三

□ 2023.05.31 第 65 回「不浪人賞」・第 53 回「年度賞」候補句募集

【応募資格】青森県在住者【応募料】青森県川柳連盟加入吟社に所属している方無料。無所属の方、又連盟日より（結果）の個人送付希望者はその旨を明記のうえ百円切手同封ください。（不浪人賞・年度賞1位に呈賞）【対象作品】2022年1月～12月に発表された作品。「不浪人賞」・「年度賞」のどちらか、または両方の応募可。*2賞への同一句の応募は不可。【応募用紙】所定用紙（コピー可）またはA4の用紙を使用し、楷書で不浪人賞（3句）と年度賞（5句）を分け、それぞれに住所・氏名・電話番号を記入ください*清記選【締切】2023年5月31日（当日消印有効）【発表】大賞の速報を各柳誌に掲載。結果詳細は「青森県川柳連盟だより」にて。尚連盟だよりは基本的に所属吟社に一括送付します。応募の際に所属吟社記入の事。【表彰】2023年9月23日（祝）川柳墨石川柳大会にて（予定）*各賞1位に賞状と記念品【送り先】〒038-3288 つがる市木造出来島33 青森県川柳連盟「不浪人賞・年度賞係」宛【選者】☆不浪人賞（6名）渡辺梢（埼玉）・赤松ますみ（大阪）・鎌田京子（宮城）・新家完司（鳥取）・島田駱舟（千葉）・野沢省悟（青森）★年度賞（10名）長谷川酔月（秋田）・熊谷岳朗（岩手）・雫石隆子（宮城）・片倉卯月（山形）・駒木香苑（福島）・千島鉄男・むさし・工藤青夏・笹田かなえ・田鎖晴天【連絡先】青森県川柳連盟事務局 濱山哲也 電話080-5574-9297【主催】青森県川柳連盟

□ 2023.06.30 第 12 回東北川柳文学大賞募集

【応募資格】東北6県の在住者（災害による避難先は可）【応募用紙】専用の応募用紙（コピー可）。またはA4版の原稿用紙に縦書き。その際冒頭にタイトル・未発表作品10句・郵便番号と住所・柳号（氏名）・電話・所属結社の順で明記。*用紙必要な方は事務局へ【応募料】1篇¥1,000（複数応募可）なお、応募時に大賞受賞者句集の購入予約（句集予約と添書きし、1冊につき¥1,200同封）をいただくと送料無料でします。【締切】2023年6月30日（消印有効）【選者】江畑哲男（千葉）・木本朱夏（和歌山）・長谷川酔月（秋田）・駒木香苑（福島）・片倉卯月（山形）・雫石隆子（宮城）・高瀬霜石（青森）・熊谷岳朗（岩手）【賞】大賞～賞状、記念品、副賞として川柳句集の無料発行権と100冊を授与、【表彰】10月1日（日）第41回東北川柳連盟弘前大会 大会席上予定【応募先】〒027-0028 岩手県宮古市神林5-25 東北川柳連盟 東北川柳文学大賞係【連絡先】東北川柳連盟事務局 伊藤豊志 Tel 0193-62-1137【主催】東北川柳連盟

◆十和田たてがみ川柳会5月句会案内◆

【時】5月20日（土）午前10時から 【所】十和田労働福祉会館 【宿題】（各題三句詠）『斜め』高田幸柳選／『波』木村奈生美選 【互選】（一句詠）『泣く』当日出席者のみ（句せんの裏に柳号記入） 【席題】一題（三句詠・共選）／選者は、瀧尻善英ほか出席者から一名 【投句先】〒034-0212 十和田市米田字桜平72 高田幸柳宛

■宿題『手助け』

- | | | |
|--------------------|----|--------|
| ① 恨めしく飼ひ猫見てる繁忙期 | 互選 | 佐藤まさあき |
| ① 未完成手助け欲しい時期来る | | 福田 芳記 |
| ① スランプヘファンの声援押す背中 | | 高田 幸柳 |
| ① キミのためならばいつでも脱げる肌 | | 瀧尻 善英 |
| ① 手助けが欲しい恋の方程式 | | 斉藤 蛙井 |
| ② 這えば立て立てば歩くと餅背負せ | | 中村 英三 |
| ② 手助けを呉れた嬉しい日の笑顔 | | 木村奈生美 |
| ② ばあさんを柔らかくするタマの手だ | | 村上 昌子 |
| ③ 有がとう苦しい時のどうして | | 久保あざみ |

「チャレンジ川柳！むさし流！」のブログはこちら

秀逸2 滑らない滑り台だけ信じます
秀逸3 スロースロークイックそれが老後の滑り方
特選 揺めない揺つ転がしのような人

■会費拝受【3月受付分】※太字は新会員

原口健二・吉見恵子(以上青森市) / 村上昌子(十和田市) / 米山明日歌(静岡県) / 大西進・田中なお(以上愛媛県)

■おかげょうき川柳社会員募集中!

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名:おかげょうき川柳社

→会費:6,000円(1年分)

おかげょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759
(〒039-3502 青森市久栗坂字浜田87-2)

終着駅 Sin

いま何かと話題になっている「ChatGPT」、いまゆる文章生成型AIによるチャットボットである。このAIに「川柳を説明して」と投げかけた。答えが以下である。

川柳(せんりゅう)は、日本の独特な俳句の一つで、季語を用いず、5・7・5の音数で詠んだ五・七・五の三行詩のことを指します。一般的には、季節感や風景・自然現象に対する感性や風刺・皮肉を込めたユーモアのある言葉遊びが特徴的です。

例えば、以下のような川柳があります。
「月の出 鼻毛伸ばして 待っていた」
「銀杏の ちり踏みしめながら 出勤する」
「腹を出す 今年もまんざら ないかな」

川柳は、一見シンプルな形式であるが、表現には工夫やアイデアが必要で、独特の味わいを持っています。日本では、季節の移り変わりや風物詩に合わせて季語を入れ

た俳句が広く親しまれていますが、川柳はよりフレキシブルな表現ができる点が魅力的であり、多くの人々に愛されています。◆元々の日本語の情報量が少なすぎるため、日本語での質問には誤答が多いのが現状である。挙げている例句もどこから引っ張って、なぜそれをチョイスしたのかはわからない(笑)そこで、このChatGPTに川柳を作らせてみた。題は杉野十佐一賞と同じ「産」。<胎内の世界 今宵あなたとお別れか>う～ん、なんかつまらない。「シュールな感じで作って」と質問を変える。<お腹の中にヒツジやクジャと一緒にいる><産まれたのはイカカタコかわからない>なんか良くなってきたけど、う～ん◆もともとAIは模倣でしかないと、新しい発想という点では厳しいところもあるが、「川柳シミュラリティ」は近いのかもしれない◆Sin

おかげょうき川柳社 作品募集案内

□ 2023.05.20 おかげょうき会員雑詠集「無人駅」5句(7月号分)

【締切】5月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】7/10発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2023.06.03 おかげょうき川柳社本社6月句会

【時】6月3日(土)午後1時～【所】アウガ5階小会議室【投句締切】6月2日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『枯れる』/『形』/『自由詠』【席題】1題3句詠・2人共選。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選句『父』1句【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/toku/【メールで直接送信投句】moriko@okajoki.com(守田啓子)

□ 2023.06.14 〆「川柳吟行会 ぼ」6月句会

【投句締切】6月14日(第2水曜日)【題・投句数】『動く』2句【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかげょうきに掲載。メール交換できる方ならおかげょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。

□ 2023.06.20 おかげょうき会員雑詠集「無人駅」5句(8月号分)

【締切】6月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】8/10発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2023.06.24 川柳吟行会ぼ・カモミール句会合同吟行

【日時】6月24日(土)13時～16時30分【吟行・句会場所】八戸市『更上閣(こうじょうかく)』(八戸市本徒士町5-4 ☎0178-22-2260 JR八戸線 本八戸駅より徒歩10分)【参加費】500円(施設利用料込) *お酒以外の飲食持ち込み可【参加申込・問合せ】6/10迄熊谷冬鼓へ(toko@okajoki.com Fax017-752-3759) *会員以外の方も参加可



おかじょうき川柳社：誌上句会

0 番線

- OKAJOKI ZERO LINE -

課題と選者（2句詠・共選）

題：『数』

7/31 〆切

選者

四ツ屋いずみ（北海道）

奈良一艘（青森県）

投句方法

※誠に申し訳ありませんが、郵送・FAXでの応募は受け付けておりません。

【ウェブサイトからの応募】

<http://okajoki.com/toku/0line.html> へアクセスし、作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。

【メールで直接送信する場合】

メール本文内に「作品（2句まで）」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号（ふりがな）」「電話番号」を明記し、件名に「0番線」として、守田啓子宛にメール送信してください。＜送信先アドレス：moriko@okajoki.com＞



投句料（※おかじょうき川柳社会員は無料です。）

1,000 円（発表誌呈） *発表誌の送付をもって、投句料受領したものとさせていただきます。

◆振込先：郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

賞

特選の方に青森県特産品を贈呈。